

明智光秀公ゆかりの地

2020年
大河ドラマ
『麒麟がくる』
放送決定!!

びわ湖大津 の城跡

大津・幻の城ゆかりの地を歩く

- ◇明智光秀の幻の水城・坂本城
- ◇関ヶ原の勝敗を左右した・大津城
- ◇湖上に浮かんだ雄姿・膳所城



坂本城址公園「明智光秀像」



西教寺総門



明智光秀とその一族の墓

滋賀県大津市

大津の城跡

「戦国時代、覇権争いに揺れた
幻の城跡を訪ねて大津へ」

琵琶湖と比良・比叡・長等など数多くの山並みに囲まれた大津は、戦国時代、京都と東国の中間に位置したことから、数多くの城が築造され、日本史の表舞台にも度々、登場。本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の坂本城をはじめ、関ヶ原の戦いの前哨戦として有名な大津城など、天下統一の夢をかけた、ロマンあふれる舞台が、ここに。

「山城から平城へ、時代と共に
変化した天下取りの拠点」

日本の城は、時代ごとの目的に応じ、場所や規模、形などが違う。例えば宇佐山城のように険しい山頂に造られた「山城」は、軍事基地的な意味合いが強く簡素で小規模なものが大半。その後、国取り合戦が激化しさらなる勢力拡大のため、城は防衛主体から領地を統治し、政治・経済の中枢を担う「平城」としてより交通の発達した平野部へと移っていく。大津城や膳所城などが、その典型と言える。

▽ 堅田城

信長軍の武將・坂井政高が、朝倉・浅井軍と死闘を繰り広げた水城。

▽ 雄琴城

明智光秀に仕え軍功をあげた和田秀純が天文七年に築城。

▽ 壺笠山城

志賀の陣で朝倉・浅井連合軍が立て籠り信長軍と戦った山頂の城郭。

▽ 宇佐山城

京都へ通じる2大幹線を封鎖しその間に築いた森可成の居城。

▽ 坂本城

明智光秀が信長の命を受けて築いた、豪壮華麗な名城。

▽ 大津城

関ヶ原での東軍勝利に貢献した京極高次の龍城戦で有名な水城。

▽ 膳所城

築城の名手と名高い藤堂高虎が縄張りを担当した、湖上の浮城。

▽ 石山城

石山寺の裏山の山岡氏の砦。元龜四年に足利軍と織田軍が戦う。

▽ 瀬田城

本能寺の変後、城主山岡景隆が瀬田橋を焼き落として光秀と対戦。

▽ 田上城

甲賀郡の土豪多羅尾氏がこの地に築いた城。別名多羅尾城とも。



膳所城

築城の名手、藤堂高虎が
築いた湖上の浮城

「湖上に映える雄姿は
日本随一の美しさと伝わる」

徳川家康は関ヶ原の合戦後、軍事的に不利な大津城を廃城にし、翌年、やや東南の湖岸に膳所城（築城設計「天下普請」第一号の城となる。縄張（築城設計）は築城の名手・今治城主の藤堂高虎が担当。湖中に石垣を築き、本丸と二の丸を配置し、両者は廊下橋でつながれ、二の丸の北には北の丸、南にはI字型の帯曲輪が付く特異ななかとちをしていた。さらに本丸には四層

四重の天守があり、各郭に櫓があったので、その美観は日本一とさえ言われ、また湖上から眺めると、水中に浮いてみえたため、「湖上の浮城」とも呼ばれた。その後、2度の地震や江戸中期のお家騒動、幕末の動乱を経て、明治三年、廃城となるまで270年の歴史を刻むことになる。

「名城の証である別名『石鹿城』」
その由来はこんな奇策にあり

古来名城には別名が付けられ、膳所城もまた「石鹿城」と呼ばれていた。その由来は、第一〇代藩主・本多康慶の時代に遡る。膳所城中大手門の構造が、幕府の規定に違反していたとの密告があり、役人が調査にやってくることとなった。そこで膳所藩は、瀬田口総門から中大手門へと通じる道に犬の血を塗って、むしろを被せた大石を置き、これは何の道とめた鹿で、道が血で汚れているからと別の道を通らることに成功。その策が功を奏して、幕府からのお咎めはなく、以来、膳所城は「石鹿城」と呼ばれるようになった。

「市中に残る数多くの遺構や
城下町の面影が、当時を物語る」

現在、膳所城の本丸跡は公園として整備され入口には復元された城門と城壁、天守閣跡には石碑がたち、石垣及び堀の一部が遺構として残っている。当時の建造物は明治時代にすべて取り壊されたが、膳所神社、篠津神社に、いずれも重要文化財に指定された城門が、二重櫓なども市内に残っている。ぜひ併せて巡りたい。

膳所城ゆかりの地を訪ねる

緑心寺（さんしんじ）

膳所城の初代藩主・戸田一西が慶長七年に創建した膳所藩主の菩提寺で、境内には石の玉垣に囲まれた五輪塔型の本多家歴代墓などが並び、また戸田一西の木像をはじめ、膳所藩に関する資料なども多く保管されている。



膳所神社（せせしんじ）

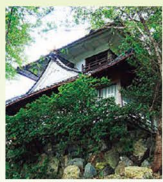
膳所城本丸跡地の近くにある神社。中世には膳所武將崇敬が盛く、社伝には豊臣秀吉や秀吉夫人の北政所、徳川家康など、名神将を奉納したという記録が残る。表門は明治二年、廃城となった膳所城から移築されたもの。



瓦には立ち廻の紋がみられる。

芭蕉公館（はしやうきん）

昭和29年、芭蕉270年忌記念事業として、茶臼山中腹に建設。前庭からは芭蕉先生が愛した湖南の風景が一望、膳所城本丸東正面の二重櫓を移築改造したもの。

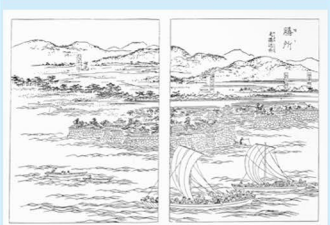
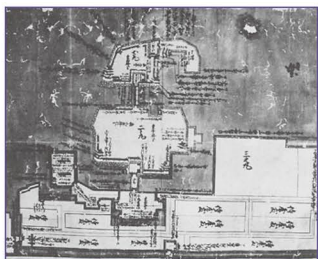


膳所城ゆかりの遺構には、本多家の「立ち廻」の紋がみられるものもある。探してみるのもおもしろい。



■寛文大地震の被害状況を記した膳所城絵図

膳所城修復願ヶ所絵図（滋賀県立図書館蔵）※
寛文二年の大地震は現高島町を震源とするもので、マグニチュード7.6。膳所城もかなりの被害を受け、この時の改築で藤堂高虎の縄張りも、堀を埋めるなど、相当に変更、改築された。



●「近江名所図会」に描かれた膳所城 ※

膳所城は湖上に浮かぶその優美な姿から、東海道を往来する人々の評判となり、近江八景や浮世絵などに盛んに描かれた。「瀬田の唐橋、唐金殿宝珠、水に映るは膳所の城」と歌にもなる。

関ヶ原の勝敗を左右した
と言われる大津城の攻防。

（長政の長女・茶々は秀吉の側室、三女のお江は徳川秀忠の妻）、難しい立場に立たされる。ひとまず三成側の西軍に属し、北陸討伐へ向かうも足は重く、突如、東軍への寝返りを決め、

海洋から船で大津城へ帰還し、3千人の兵と共に籠城。関ヶ原の前哨戦として毛利元康率いる西軍1万5千人が攻めるも、堅い守りの前に落城まで8日を要した。奇しくもその日は徳川軍が西軍を打ち破った日。ここで足止めされた大軍は結局、関ヶ原での本戦に間に合わず、これが勝敗を左右したとも言われる。

（長政）。その後、数名の城主を経て、文禄四年、京極高次が近江八幡城から移り、六万石で城主となる。その後、関ヶ原の戦いが勃発。高次は妻のお初はつが浅井長政の次女であったことから



■大津籠城の合戦図（『郷土戦史』より）※
京極高次は籠城の際に、大津城下をおよそ14時間もかけて焼き払っている。これにより大津城下は荒野と化し、瀬田近辺から三井寺のあたりまで、田畑もすべて刈り取られたと言われる。



■市に残る大津城の石垣（中央・丁目）
 曳山展示館の裏手に、外堀と言われている石垣が一部現存している。付近は町家が多く残っているため、当時を想像しながら歩いてみるのもよい。

秀吉への忠誠心を貫いた
戦国武将・石田三成の最期

関ヶ原での勝利後、家康は犬伏に入城。そこへ捕縛された三成が連行されるが、すぐに討面は許された。城門前に敷いた畳一帖の上で唾し者にされた。登城してまた東軍諸將の反応は様々で、罵倒・嘲笑する者あり、慰めの言葉をかける者あり。小早川秀秋に至つては「この鬼怯者め」と反対に三成に一喝されたとか。その後、三成は六条河原で処刑された。

琵琶湖の水運を握った
「大津百艘船」

天正十五年、豊臣秀吉は水陸交通の要衝で京への東玄関となる大津の港にいち早く着目。水

●丸子舟
琵琶湖に蒸
までは、湖
船が使われ
立てて並べ
を半分にし
特の構造。
津市歴史博

ていたと、謡謡とねえ、こゝして大津は琵琶湖の物資が集散する港町として、また東海道の宿場町として、発展していくことになる。



●彦根城
姫路城などと並び、天下の名城の一つに数えられる彦根城は、井伊直継と直孝によって約20年の歳月をかけて建設され、元和8年に完成。大津城の天守が移築されたほか、佐和山城や長浜城など、いくつもの城の城門や石垣などが使われている。琵琶湖八景の一つで、天守は国宝。

📍JR「彦根駅」下車、徒歩15分

大津別院
(おおつべついん)

真宗大谷派（東本願寺）の別院。信長に敵対した本願寺の教祖が創建。徳川家康が上洛の時に泊まる居館きかんだった。本堂は、外陣が広くとった典型的な真宗寺院で、書院とともに桃山建築の様式が

269600 (書籍は事
 269600 (書籍は事
 徒歩5分(大町)下車
 JR(大町)下車
 を圧倒する。

書院の天井には
 金地・濃彩の円形
 草花図が描かれる
 と華々しく、見る者



天津市歷史博物館

三井寺の北隣に位置し、大津の文化財や資料を収集、公開している。復興模型やイラスト、写真などを使って、大津から子供まで楽しめるし、しみじみながら大津の歴史が学べる。大津百景の一角として、江戸時代の町民生活が復興模型や絵図で親しめる。他にもすぐ隣に現存している、下町の復興模型や絵図、坂本城の出土品、光孝の書状などの展示もある。

● JR大津駅下車徒歩15分または阪和・大津湾畔朝明駅下車徒歩5分
● 077-321-0100 常設展 大津市文化財資料館
360円 月曜休館

和田神社
(わだじんじや)

本殿は鎌倉時代の建築で、国の重要文化財に指定されている。表門は膳所藩の藩校「遠遊堂」の門を移築したものだ。また、境内にある香の大木は樹齢600〜650年とされている。関ヶ原の戦いで敗れた石田三成が京・京都へ護送される中、つながれたという伝説が勢多川についている。

京都市東山区 本願寺
京都市東山区 本願寺
10分 徒歩
0777
052-2206077



坂本城

悲劇の武將、明智光秀と
湖に沈む幻の城を訪ねる。

「悲劇の武將明智光秀と 運命を共にした琵琶湖の水城」

元龜二年、織田信長は比叡山焼き討ち後、明智光秀に滋賀郡を与え、坂本城を築かせた。明智光秀といえは本能寺の変において主君信長を討った謀反人「三日天下」の印象が強いが、和歌や茶の湯をよくし、臣下領民に厚く自らも鉄砲の名手という文武両道の人である。その一方で、仕えた主君、朝倉義景、足利義昭、織田信長の間で苦悩し、奔走し、嘆願し、常に優れた功績を残しながらも報われない無念の人でもあった。天正十年、本能寺の変の後、山崎の戦いで敗れた光秀は坂本へと落ち延びる途上、落ち武者狩りの手にかかり自刃。その後、娘婿であ

り重臣の秀満が坂本城に籠もるも、秀吉の大軍に包囲され、自ら城に火を放ち光秀の妻子とともに自害。坂本城は落城したとされる。後に丹羽長秀が焼け落ちた城を再建するものの、天正十四年、大津城の築城に伴い廃城となった。



●明智光秀一族の墓
西教寺境内には光秀一族の墓がある。鐘楼の鐘は、坂本城の陣鐘で光秀が寄進したもの。



坂本城データ・元龜二年(1571)～天正十四年(1586)
城主・明智光秀、丹羽長秀、杉原家次、浅野長政

■湖中に残る坂本城の石垣(昭和59年7月撮影)※
坂本城は著名な城でありながら、現存する遺構はほとんどなく、今や幻の城である。琵琶湖治水時にその面影を折衷させたもの。



■坂本城の縄張り復元図(新修大津市史第7巻より)※
坂本城は内堀と堀に囲まれた水城であった。もし現存していれば、姫路城や彦根城と並び賞される美しい城であったに違いない。

「安土城と並び賞された 近世城郭の先駆、坂本城」

信長より延暦寺の監視と滋賀郡一帯の支配を任された明智光秀は、坂本(下坂本)の琵琶湖畔に当時としては随一の規模を誇る坂本城を築城。その構造は大本守と小本守を持ち、城内に琵琶湖の水を引き入れた水城で、当時、宣教師として来日していたルイス・フロイスはその著書「日本史」の中で、坂本城は信長の安土城に次ぐ、第二の名城だと讃えている。現在ではその遺構の大半は水中に没していき、琵琶湖の渇水期に水位が下がり、湖面から石垣が現れ、当時の面影を偲ばせる。



●坂本城の碑
坂本城の本丸跡とされる坂本城跡の一角に、明智光秀の墓が建てられている。坂本城跡の一角に、明智光秀の墓が建てられている。坂本城跡の一角に、明智光秀の墓が建てられている。

「明智左馬助の湖水渡り」伝説

山崎の合戦で光秀の討死を知った重臣の秀満は、救援に向かった京から進路を坂本城に変更。粟津から大津に向かう途中、秀吉方の軍勢に道を塞がれ、仕方なく琵琶湖へと馬を乗り入れた。これを見た敵軍はそのうち溺れるだろうと笑ったが、秀満は琵琶湖の遠泳をよく知り、簡単に唐崎へ到着。柳が崎付近とも。その後、この馬は無双の駿馬として、秀吉が柴田勝家と賤ヶ岳で戦った時に辱と名付けられ、美濃の大垣より二十里余りの悪路を走駆したと伝わる。



●坂本城公園
国道161号線沿いに整備された公園で、広場の一角には明智光秀の像が建つ。坂本城が実際にあった場所は、公園のさらに北側だと伝わる。
京阪「松ノ馬場駅」下車、徒歩25分

坂本城ゆかりの地を訪ねる

聖徳太子が創建した天台真盛宗の総本山で、明智一族の菩提寺としても知られる。信長の比叡山焼き討ちにより、寺も災禍を受けたが、光秀が大本坊を再建などに尽力。本堂は能ヶ崎ヤキ造り(重文)、また客殿は伏見城の遺構、狩野派による襖絵など見所も多し。

●西教寺
J.R.比叡山坂本駅より徒歩10分
京阪「松ノ馬場駅」下車、徒歩25分



●聖衆來迎寺
J.R.比叡山坂本駅より徒歩10分
京阪「松ノ馬場駅」下車、徒歩25分

●比叡山延暦寺
J.R.比叡山坂本駅より徒歩10分
京阪「松ノ馬場駅」下車、徒歩25分



宇佐山城

「比叡山城き討ちの際、光秀が拠点とした城」

元亀元年四月、織田信長は越前朝倉義景を攻めたが、同盟者である浅井長政の離れにより失敗。休養を立て直す。坂本城へ戻り、宇佐山城には、家臣の森可成（森蘭丸の父）を配し、朝倉・浅井軍に対する守りを固めた。同年七月、三好三人の摂津進攻に対して信長も摂津へ出陣。その隙をつき、連合軍は湖西を南下する。宇佐山城を守っていた浅井可成は、その進軍を止めるため出陣し、討ち取られてしまった。それを知った信長は、摂津から戻り、連合軍と対峙し、年末に相撃する。翌年、明智光秀が宇佐山城に入り、比叡山城き討ちのため、地元の土着を懐柔するなどの活動を行っていた。



山中に残る宇佐山城跡の石垣 ※

「眼下に望む山中越に、要衝の地であったことを実感」

宇佐山城の遺構は、標高336mの宇佐山頂にあり、放送局のアンテナが目印。近江神宮に隣接する宇佐八幡宮の参道から登ることができ、南北に細長く延びる尾根上、北から二の丸、本丸、二の丸。その周囲に小規模な郭がある。石垣も随所にあるが、高いものは現況ではあまり見られない。北方より眼下に今道越（山中越）が一望できる。



宇佐山城跡はNHKの鉄塔が目印



宇佐山城データ／元亀元年（1570）～
城主／森可成、明智光秀



●宇佐山城縄張り図

（注）城跡への山道は整備されていません。ご注意ください。

堅田城

「信長軍の生存者はわずか4名、死力を尽くした湖上の激闘」

元亀元年九月、浅井・朝倉連合軍は湖西を南下し、坂本に駐留する。延暦寺もこの連合軍に呼応し、織田信長と対峙していた。両者の膠着状態が続く中、堅田の一部土豪が信長に与し、堅田城に籠っており、この信長の武將である坂井政尚等も加わっていた。そして十月、反信長の勢力は、堅田城に押し寄せ、坂井はじめ主だった武將が討たれた。その後浅井・朝倉連合軍と信長の和睦が成立している。

また元亀二年の比叡山城き討ち後、滋賀郡は織田信長の支配を受けることとなり、彼らが拠点としたのが今堅田城で、元亀四年には、明智光秀らの活躍で落城している。

「江戸時代、幕府の直轄領として栄えた、堅田藩陣屋跡」

江戸時代、堅田藩の陣屋が所在し、湖底の里として栄えていた。堅田の地形は、掘割が巡る天然の要害となっていたが、堅田城がここにあったとは定かでない。江戸時代になって、堅田藩が誕生すると、湖岸に陣屋が設けられる。陣屋については絵図に残り、南は伊豆神社、北は堅田陣屋跡、東は琵琶湖に面し、本堅田に現存する石造りの大橋に当時を偲ぶことができる。



湖岸部には、今も随所に堀割が見られる。

坂本城ゆかりの地を訪ねる

日吉大社

古事記に登場する古社。織田信長の焼き討ちで境内が全焼、死後の天正十四年（1586年）に西本宮本殿（国宝）が再建された。信長存命中には表立ったことが出来ず、織田家臣の池野長政は、内部に材木を寄付し、40社の社殿群が建ち並ぶ。



滋賀院門跡

天海大僧正が京都・北白川の法勝寺を移転したもので、いわゆる江戸時代末まで天台座主の居所であった。穴太衆積み目の石積みと白壁をめぐらせ、門のほかに、江戸時代初期・小堀遠州の作庭と、越後の国指定名勝庭園や狩野派の模絵が鑑賞できる。



盛安寺

創建は不明だが、戦国時代に越前朝倉氏の家臣である杉野盛安が再興し、自分の名を冠たと伝えられる。桃山御殿の異名をとる客殿、聖来迎図を表現したという江戸時代の庭、大鼓などがある。



「電車でのアクセス」

- JR大阪駅 新快速で約40分
- JR三ノ宮駅 新快速で約1時間
- JR名古屋駅 新幹線（のぞみ）で約35分
- JR東京駅 新幹線（のぞみ）で約2時間20分
- JR博多駅 新幹線（のぞみ）で約2時間50分
- 京阪三条駅 京都地下鉄のりかえで約22分



古都おとお観光ボランティアガイドの会
大津市の魅力を地元ボランティアガイドがご案内。

交通費としてガイド一人あたり
2,000円（比叡山延暦寺は3,000円）
原則10日前までのお申込みが必要。

お問合せは下記の観光協会まで
<http://www.otsu.or.jp/information/archives/197>

発行・観光のお問合せ（公）びわ湖大津観光協会
〒520-0037 滋賀県大津市都府町2番3号市民文化会館内
TEL：077-528-2772 FAX：077-521-7330
URL：http://www.otsu.or.jp

協力／大津市歴史博物館・大津市埋蔵文化センター・滋賀県立図書館

参考／ふるさと大津歴史文化文庫2大津の城 五版（発行：大津市）
近江歴史探訪マップ3 織田信長、危機一髪 高島七郎と元亀争乱（発行：滋賀県教育委員会事務局文化財保護課）
信長戦国近江（発行：大津市歴史博物館）
大津 歴史と文化（発行：大津市）
近江歴史探訪マップ5 おとお湖都古歴史散策（発行：大津市歴史博物館）
近江のお城46選（発行：滋賀県教育委員会）

約9分
京都から大津まで
大津から大津まで
約40分

京都から大津まで
大津から大津まで
約40分